

## 第6回海友フォーラム懇談会に出席して

2009.1.20. 間野正己

2009年1月14日の第6回海友フォーラム懇談会に出席した感想を纏めて見た。本懇談会を開催しようと言う岡本代表の意思表示に対して「懇談会の目的(懇談会の結果で行動を起こすのか？単なる懇談会か？)を明確にしないと出席の決心が着かない。」と連絡していた。出席してみてもアウトプットの無い、年寄りの繰り言の様に思われた。

田所さんの「造船を支えた匠たち」は立派な論文であった。然し私は立派な論文を聞くつもりは無かった。私達の時代には「匠の技を吐き出させて、それを標準化して素人にでも船が作れる様にした。」と理解している。それが良かったのか、悪かったのか皆さんの考えを聞きたいと思っているが、今更聞いても何の役にも立たない。

「修理工事は新造時の状態に戻せば良いので、図面さえあれば楽である。」との説明があったが、(私の聞き違いかも知れない。)私は修理工事は、現物を見て「放置してもOK」「元に戻す」「元以上の強度を持たす」との判断が必要で、高度の技術を要すると思っています。

大野さんの「造船工作と技術継承についてのメモ」も立派なお話であった。私は社会人教育には反対である。社会人になったからには自分で必要な事を学ぶべきである。「造船を知らない大卒生が多いから、社会人教育が必要だ。」と仰る。本末転倒である。造船を知らない人は造船所に来なければ良い。講師の中に大学の教授が多いのは不思議である。在学中の教え方が不足していたのを補う心算か？社会人教育に受講者を派遣する企業の気持も分からない。夫々の企業には独特の技術があり、それを新人に教えるのが本筋の様に思える。

岡本さんの「さらば工学部」では、私は「日本の優秀な若者は工学部よりも、法学部・経済学部へ行くべきだ。」と発言した。世界情勢を眺めての、私なりの感じであった。世界の治安・経済の混乱の中で工学が進歩するのは恐ろしいと思っている。

大野さんの話の時か、最後の懇談の時かに産学協同研究の話が出た。私は「大学の業界密着志向は大学の墮落だ。」と発言した。大学は真理の探究が第一で、大学が解き明かした真理を利用して業界が物を作るのが本筋である。との考えからである。一番良い例は、乾先生の造波抵抗の研究である。模型船を引っ張って抵抗を測る従来の方法の中間に、波の形状を観察するステージを入れて、波を観察しながら船型を改良する方法を確立した。

大学の先生たちが、子供たちを相手に船のお話などしているのを当然の様に、皆さん(学会までも)が思って居られるのも理解に苦しむ。世界の最先端の学理を競って研究している先生の姿とは思えない。

以上